

小学校・道徳の内容項目の解説

畏敬の念

●小学校学習指導要領（平成20年3月）

3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること		〔一般的な呼称例〕
低学年	(3) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつ。	畏敬の念
中学年	(3) 美しいものや気高いものに感動する心をもつ。	畏敬の念
高学年	(3) 美しいものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ。	畏敬の念

●解説

関連の説明	美しいものや崇高なもの、人間の力を超えたもののかかわりに関するものであり、それらに対して感動する心や畏敬の念をもった児童を育てようとする内容項目である。主に、第3・4学年の3の(3)及び第5・6学年の3の(3)と深くかかわっている。
全体的な理解	科学が万能であるかのような錯覚を生みかねない今日の社会において、科学の発展を期待し理性の力を信じるとともに、人間の説明を超えた美への感動や、崇高なものに対する尊敬や畏敬の念をもち、人間としての在り方を見つめ直すことが求められている。美しいものに触れて素直に感動する気持ちや、気高いものや崇高なものに出会ったとき尊敬する気持ちなどを、児童の心の中に一層育てることが大切である。
低学年	この段階においては、特に、児童の生活の中に存在している身近な自然の美しさや心地よい音や音楽などに触れて夢を描き、物語などに語られている美しいものや清らかなものに素直に感動するような体験を通して、すがすがしい心をもつように指導していく必要がある。
中学年	この段階においては、美しいもののみならず気高いものにも気付き、意識的に触れようとする態度を育てることが大切である。それは、想像する力や感じる力がより豊かになっていくからである。自然の美しさや気高いものに触れて、素直に感動する心を育てていくことが求められる。
高学年	この段階においては、人間のもつ心の崇高さや偉大さに感動したり、真理を求める姿や自分の可能性に挑戦する人間の姿に心を打たれたり、芸術作品の内に秘められた人間の業を超えるものに気付いたり、大自然の摂理に感動しそれを包み込む大いなるものに気付いたりすることなどを通して、それらに畏敬の念をもつことが求められる。そして、人間としての在り方をより深いところから見つめ直すことができるように指導することが大切である。

文部科学省「小学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年8月）より

■参考：中学校学習指導要領（平成20年3月）

3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること		〔一般的な呼称例〕
(2)	自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心をもち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。	自然愛・畏敬の念
(3)	人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることの喜びを見いだすように努める。	弱さの克服・ 生きる喜び